

本学は地元自治体(山形県・山形市)が学校法人と大学を新たに設置する「公設民営」方式により設立された大学であるという経緯もあり、芸術・デザイン系大学としては全国に先駆けて開学当初より積極的に地域や企業との連携に取り組んできています。

産学連携オフィスである「共創デザイン室」及び「文化財保存修復研究センター」など、学内の研究機関による受託研究は、700件近くにのぼり、芸術・デザインという教育研究の特色を生かし、東北地域になくてはならない大学としての存在感をますます高めています。

共創デザイン室(HP:<http://gs.tuad.ac.jp/kyoso/>)

平成23年5月には地域と大学との交流拠点として大学から約2キロ離れた山形市松見町に『やまがた藝術学舎』がオープン。これまで産学連携窓口の役割を担ってきた「総合研究センター」を「共創デザイン室」にリニューアルし、このやまがた藝術学舎に移動させ、デザインのショールームを兼ねた地域産業や行政との連携窓口として地域との連携活動の高度化を図ることになりました。共創デザイン室には専任職員が常駐し、受託研究業務の相談に応じるとともに、デザイン系の教員4名の主幹研究員が各種バックアップを行なっています。

1 受託研究事業

産学連携を中心とした地域との連携に関する窓口として年間を通じて相談業務を実施しており、平成23年度の相談件数は121件にのぼっています。そのうち受託研究に結びついたものが42件、委託研究費の総額は約2,400万円。震災前の平成22年度と比較すると約500万円増加しており、東北の産業振興にも一役買っているものと考えられます。

2 教育と産業界との橋渡し

デザイン工学部の教育方針である「産学連携、地域プロジェクトなどの積極的導入によるリアリティのある実践」を側面から支援。平成23年度は次のプロジェクトにおいて企業との覚書締結等側面支援を実施しています。

- ・東北パイオニア株式会社(テーマ:20××年の未来の製品)
- ・株式会社本田技術研究所(テーマ:「役立つ道具」「助ける道具」のデザイン提案)
- ・株式会社朝日相扶製作所(テーマ:キャリーバッグのデザイン)

3 地域企業との交流活動

地域の産業と芸術・デザインとの橋渡しのため、企業や行政等関係機関との交流も実施。共創デザイン室では地域の産業とのより実践的な交流を目指し、産学連携セミナー『共創のテーブル』をスタートさせました。平成23年度は延べ5回のセミナーを開催し、地元企業や行政などから200名近い参加者を集めました。各回とも35名前後の少人数によるディスカッションやワークショップを中心とした内容で、参加者と講師とがきわめて近い距離で密度の濃い交流を行なっています。

4 知的財産保護等への取り組み

学生や教員による創作に関する知的財産保護等への取り組みも重視しており、平成22年度からは、独立行政法人 工業所有権情報・研修館による「広域大学知的財産アドバイザー」事業に参画。連携大学との情報交換などを実施しながら知的財産保護等のための体制づくり及び諸規程の見直し等に取り組んでいます。

デザイン哲学研究所(含サステナブルデザイン研究センター)

1 オープン・リサーチ・センター整備事業

文部科学省オープン・リサーチ・センター(ORC)整備事業の採択を受けて、平成19年度から23年度までの5年間、「デザインの意味と本質について意識変革を促す活動とそのための基礎調査研究」活動を展開し、昨年度末をもって当該プロジェクトを完了させました。最終年度である平成23年度は、以下のプロジェクトを実施。

- ・デザイン哲学叢書『デザインの知』vol. 5及び6の発行
- ・講演会の開催(講師:アミタHD熊野英介会長兼社長)
- ・デザインカフェの実施 計2回
(講師:コミュニティデザイナー山崎亮氏、本間利雄設計事務所代表本間利雄氏)
- ・共同研究会の実施(特別講演:千歳建設会長千歳栄氏)
- ・その他各種事業

2 サステナブルデザイン研究センター

平成23年2月に第5回サステナブルデザイン国際会議を本学にて開催。研究者や学生のみならず多くの市民や企業等を巻き込んでこれからの社会のあり方について考える学会となりました。

平成23年度にはセンター長が岩手県南地域(一関市)での技術研修会にて講演会を実施。さらにワールドデザインサミット(韓国)に招聘され講演を行う予定でしたが、あいにく会議は延期となり開会待ちとなっています。